

町立幼稚園の適正規模・適正配置の取組みに関する地区別説明会の実施結果について

1 説明会の概要

地区名	参加者	参加者内訳
中畑地区 7/7(金)	11名	・議員 4名 ・検討委員 3名 ・保護者 2名 ・地区住民 2名
三神地区 7/10(月)	5名	・議員 3名 ・検討委員 2名
矢吹地区 7/11(火)	16名	・議員 6名 ・検討委員 4名 ・教育委員 1名 ・保護者 2名 ・地区住民 3名

2 質疑・意見交換の主な内容

質問・意見
<p>■再配置の時期についての質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な統合の時期はいつ頃になるのか。 <p>▶回答 時期については未確定、今後検討を進めていく。</p>
<p>■再配置後の場所についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再配置により園の場所が遠くなることが心配 <p>▶回答 再配置場所の検討はこれからであり、通園の長距離化に対する不安が解消できるよう協議・検討を深めていく。</p>
<p>■1学級あたりの適切な園児数についての質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針にある1学級あたりの園児数が20名という根拠はどのようになっているのか。 ・1学級あたりの望ましい園児数について、教職員の意見も踏まえて検討を進めていただきたい。 <p>▶回答 文科省では幼稚園の1学級あたりの適正人数を35人以内と示しておりますが、今回策定の基本方針の1学級あたり20名の編制については、保護者アンケートにおいて1学級あたりの園児数が11～20名程度が望ましいという結果、また幼稚園の教員から現場の声として1学級20名程度が適切な学級規模であるとの意見も踏まえ、20名程度の学級編制について検討している。なお、今後の1学級当たりの望ましい園児数については、教職員で組織する作業部会からの聞き取り等を行っており適切な学級規模となるよう検証を進めてまいります。</p>
<p>■教職員の処遇についての質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再配置後の教職員の処遇（給与・役職・配置）はどうか。 <p>▶回答 雇用の継続、また給与面等で不利益な取扱いにならないよう人事部門とも協議を行っていく。</p>
<p>■再配置後の運営形態についての質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合後の運営形態は、順次地区ごとにこども園化していけば理解が得られやすいのでは。

<ul style="list-style-type: none"> ・再配置後の運営形態がどのようになるのか心配である。 <p>▶回答 再配置後に教育の差が各地区で起きないように協議・検討を進めて行く。</p>
<p>■保育園と幼稚園に関する意見・質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、保育園、認定こども園のニーズは高まっていく。一方、町立幼稚園は減少傾向があり、保育園から幼稚園に移ってもらうことで、解決が図られるのではないかと。 ・基本方針について、ハード面から適正化の検討は行われたいのか。 <p>▶回答 今後の少子化を見据え、望ましい幼児教育環境の実現のためにはどうすればよいか、様々な視点で検討していく。</p>
<p>■教育方針に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町立幼稚園も私立の園のように特色ある教育を打ち出して魅力ある園経営をしてほしい。また、小学校の準備段階であるため、45分間着席できることや、ひらがなの練習など小学校へのスムーズな移行につながる教育も施してほしい。 <p>▶回答 今後の適正化の検討にあたっては、私立園・町立幼稚園のそれぞれの良さを十分に検討して将来的に望ましい教育について協議していく。</p>
<p>■将来の園児数推計についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の園児数推計について、町の子育て支援施策の効果を反映した形で示してほしい。 <p>▶回答 現段階で園児数の将来推計に子育て支援施策の効果を反映することは難しい。町でも子育て支援施策の拡充を行い、結婚、出産、育児、子育てと人口増のための取り組みを進めている。施策の効果により人口減少が改善されるよう引き続き取り組みを継続していく。</p>
<p>■その他の意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代の活力を教育の場で活用してほしい、また、行政でその橋渡しをしてほしい。 <p>▶回答 町では地域学校協働本部により、教育ボランティアと教育の現場との橋渡しの活動が始まっている。シニア世代の教えたい、役に立ちたいという気持ちはありがたく、新たな魅力が生まれると考えている。適正化のみに限らず、まちづくりという観点でもシニアの力を活かせるよう今後の検討事項とする。</p>